

5月25 - 29日週のドル円レビュー

June 1, 2009

投信設定需要 米財政赤字懸念

High : 97.24 円 Low : 94.42 円

Close : 95.28 円

週前半は、北朝鮮核実験の地政学的リスクで円売りが優勢。また外貨建て投信設定のクロス円の買い需給に影響され、ドル円は週後半には 97 円前半まで上昇したが、韓国年金が米国債への資産配分引き下げとの報道もあり、95 円前半へ反落した。

5/25 (月) 94.86 円

英・米市場が休場のため取引閑散の中、アジア時間から円売りの材料となった北朝鮮の核実験やミサイル発射が材料視され、ドル円は 95 円前半まで上昇。

5/26 (火) 95.05 円

前日に続き、北朝鮮がミサイルを発射し、地政学的リスクが意識され 95.15 円まで上昇。しかし 95 円台では戻り売り圧力が強く反落。ただ、米消費者信頼感指数が予想を大きく上回ったことから、米株は全面高。ドル円は株高を受けて堅調に推移し、94 円半ばから切り返して 95 円近辺で引けた。

5/27 (水) 95.36 円

ドル円は東京午後に試した高値 95.51 円が意識され、ロンドン朝方に再び 95.48 円まで上昇。その後、米株・債券の下落、GM 破綻の可能性が高まったことを受けてドル売りが優勢となり、94.66 円まで下落したものの、95 円前半に反発して引けた。

5/28 (木) 96.90 円

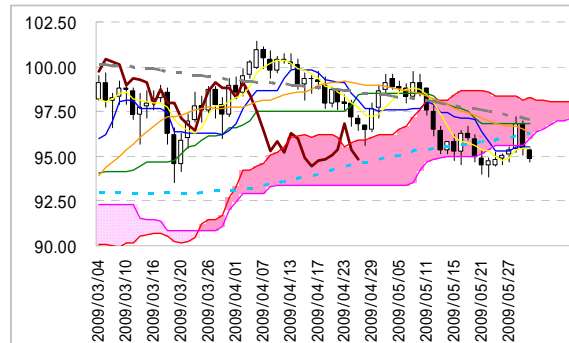
ドル円は地政学的リスク、本邦投資家・アジアネームの円売りから、97 円台回復と 2 週間ぶりの高値まで上昇。米新規失業保険申請件数が予想を下回ったことからドル円は一旦 97.24 円まで続伸。しかし、その後発表の指標悪化を嫌気して 96.57 円まで下落した。

5/29 (金) 95.28 円

ロンドン勢参入時は、円が対オセアニア通貨などで軟調に。他のクロス円も連れ高となり、ドル円も 96.90 円まで上昇、東京午前に伝わった韓国公的年金の米債ほか海外投資圧縮報道などを改めてドル売りの材料にする向きもあり、一時 95.01 円まで下落後に 95.28 円で引けた。

月日	High	Low
5/25 (月)	95.23 円	94.42 円
5/26 (火)	95.15 円	94.51 円
5/27 (水)	95.51 円	94.66 円
5/28 (木)	97.24 円	95.24 円
5/29 (金)	97.00 円	95.01 円

ドル円の推移



テクニカル短期・中期ポイント

97.94 (5月6日安値)

====先週末のNYクローズ 95.28 円====

93.55 (3月19日安値)

米国の重要指標結果

5/26 (火) [結果] (前回)

5月消費者信頼感指数 [54.9] (40.8)

5/27 (水) [結果] (前回)

4月中古住宅販売件数 [468万件] (455万件)

5/28 (木) [結果] (前回)

4月耐久財受注 [+1.9%] (-2.1%)

4月耐久財受注(除輸送用機器) [+0.8%] (-2.1%)

新規失業保険申請件数 [62.3万件] (63.6万件)

4月新築住宅販売件数 [35.2万件] (35.1万件)

5/29 (金) [結果] (前回)

1-3月期 GDP 改定値(前期比年率) [-5.7%] (-6.1%)

5月シカゴPMI [34.9] (40.1)

アウトルック ダイジェスト版

レンジ : 93.00 - 97.00 円

今週はイベントが続き、まず米ガイトナー財務長官が訪中。中国要人と会談が開かれ、発言に注目だが、人民元と貿易黒字には言及しないと述べており、米国債購入を促すと見られる。また 3 日にはバーナンキ FRB 議長の議会証言を控え、経済関連の発言に注目。指標では、週末の米雇用統計が先月に続き低調か。欧州では、4 日 ECB 理事会は金利据え置きと予想。米長期金利の上昇を受けて世界的に金利が上昇気味で、金融セクターのリスクに市場は微妙に反応している。来週の米国債の入札を控え、市場はドル買いに慎重となりそう。ドル円はレンジ下限での展開と見る。